

NIAS (機能制限ライセンス) 簡易設定ガイド (Windows Server IoT 2022 for Storage)

iStorage NS シリーズ

商標について

- Windows、Internet Explorer、Hyper-V、Excel、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、Pentium は、米国 Intel 社の商標または登録商標です。
- PostgreSQL は PostgreSQL グローバル開発チームが著作権を有し、カリフォルニア大学のライセンスの元に配布されています。
- Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。
- Apache Tomcat、Tomcat は、The Apache Software Foundation の商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

略語・用語について

- Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
- NIAS は、NEC Information Assessment System の略称です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書の内容および本書を使用した結果について明示的にも黙示的にも一切の保証を行いません。

目次

1.	はじめに	1
1.1	概要	1
1.2	NIAS のプレインストールに伴う各種変更	2
1.2.1	NIAS プレインストールにより変更している OS 設定	2
1.2.2	NIAS と共にインストールされる OSS ソフト	3
1.2.3	注意事項	3
1.3	諸元	4
1.3.1	ディスク使用量	4
1.3.2	必要なメモリ量	4
1.3.3	NIAS の検査時間	4
1.3.4	NIAS 使用ポート	5
2.	NIAS を導入する	6
2.1	NIAS の導入を検討する	6
2.2	NIAS を設定する	6
2.2.1	iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する	8
2.2.2	実行可能時間帯を変更する	11
2.2.3	検査スケジュールを変更する	12
2.3	ウイルス対策ソフトの除外設定を行う	14
3.	NIAS を運用する	15
3.1	検査を実行するには	15
3.1.1	実行可能時間帯を設定する	16
3.1.2	検査スケジュールを設定する	18
3.2	既存のグループに共有を追加するには	20
3.3	新しいグループを作成し共有を追加登録するには	22
3.4	Administrator のパスワード変更またはコンピューター名の変更を NIAS に反映するには	22
3.5	ビルトイン Administrator のユーザー名を変更、またはアカウントの無効化を実施した際の対処	22
3.5.1	名前を変更した Administrator ユーザーにて NIAS サービスを実行する方法	23
3.5.2	新規ユーザーにて NIAS を実行する方法	25
3.6	検査対象を増やすには	25
3.7	NIAS のサービスを無効化するには	26
3.8	NIAS のサービスを有効化するには	26
3.9	NIAS をアンインストールするには	27
3.9.1	NIAS サービスの無効化	27
3.9.2	NIAS のアンインストール	27

3.9.3	Apache Tomcat のアンインストール	28
3.9.4	NIAS シャットダウンスクリプトの削除	28
3.9.5	シャットダウンのタイムアウト時間を OS の既定値に変更	29
4.	困ったときは	30
4.1	FAQ	30
4.2	トラブルシューティング	31

1. はじめに

1.1 概要

NEC Information Assessment System (以降、NIAS と記載) は、ファイルサーバーに格納された情報を最大限に活用するための製品です。ファイルサーバーの検査による、現状把握 (見える化)、格納情報の整理を支援する機能を持ちます。これらの機能を利用して、ファイルサーバーを健全な状態に保つことにより、ファイルサーバーの運用に関わる TCO を削減します。

iStorage NS シリーズにプレインストールしている NIAS (機能制限ライセンス) では、見える化の機能 (下記画面) のみ利用できます。他の機能は利用することができませんのでご注意ください。詳細については、【NIAS (機能制限ライセンス)利用ガイド 3. 見える化】をご覧ください。

- ホーム画面 . . . ファイルサーバーの見える化の機能を提供する画面です。
- ログ画面 . . . 処理の実行状況を確認する画面です。
- 設定画面 . . . NIAS の設定を変更する画面です。

機能制限ライセンスには 1TB までの容量制限があり、統計検査対象ファイルの合計サイズが 1TB を超えた場合、見える化の機能を利用することができません。

iStorage NS シリーズの出荷時状態では、NIAS 検査対象ドライブを D ドライブとし、1TB に設定しています。

なお、NIAS (機能制限ライセンス) をご使用にならない場合は、NIAS サービスを無効化、あるいは、アンインストールすることができます。

1.2 NIAS のプレインストールに伴う各種変更

1.2.1 NIAS プレインストールにより変更している OS 設定

NIAS をプレインストールすることにより、以下の OS 設定を変更しています。

- シャットダウンスクリプトの追加
シャットダウン実行時の NIAS 管理データ破壊を防ぐため、シャットダウンスクリプトを追加しています。シャットダウンスクリプトでは NIAS のシステムと関連サービスの停止、関連サービス停止完了の監視の処理を行っています。
- シャットダウンのタイムアウト時間延長
シャットダウンスクリプトの追加により、シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間を 533 分に変更しています (OS の既定値は 10 分です)。また、OS のプレシャットダウンタイムアウト時間を 540 分に変更しています (OS の既定値は 15 分です)。
- スタートアップの変更
サインイン時、NIAS の管理画面が自動的に起動するようにスタートアップを変更しています。自動起動を止めるには、[【4.1 FAQ】](#)の「iStorage NS にログオン時に、NIAS の管理画面が自動起動するのをやめたい」を参照してください。
- NIAS ショートカットアイコンの追加
デスクトップに NIAS のショートカットアイコン(NIAS 管理画面、ライセンスツール)を追加しています。
- 下記の Group Policy Client サービス(GPSVC)のレジストリにて、Administrator のアクセス許可を読み取り (OS デフォルト) からフルコントロールに変更しています。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥gpsvc

1.2.2 NIAS と共にインストールされる OSS ソフト

NIAS のプレイインストールに伴い、以下の OSS ソフトがインストールされています。

- Oracle JDK 17
- Apache Tomcat 9
- PostgreSQL 10

上記の OSS ソフトを使用する他のアプリケーションをインストールすると、競合などの問題が発生する可能性があります。そのため、NIAS との共存はできませんのでご注意ください。NIAS をアンインストールする場合は、本書の【[3.9 NIAS をアンインストールするには](#)】を参照してください。

1.2.3 注意事項

- ・ iStorage NS シリーズでは、OS のファイル最終参照時刻の更新が無効となっているため、NIAS において最終参照時刻による分析を行うことはできません。
- ・ データ重複除去機能を利用している領域を NIAS の検査対象にする場合、NIAS の検査時間外に以下の設定を行ってください。なお、ファイル名の拡張子を表示するには、エクスプローラーの上部にある [表示] をクリックし、[ファイル名拡張子] にチェックを入れてください。
 - “C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS\Crawler\ias-crawler.ini” をメモ帳で開き、CrawlSymbolicLinkFlag 設定を「1」に変更し、上書き保存してください。
 - “C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS\Operation\Security\IASAuthorityOperator.ini” をメモ帳で開き、SymbolicLinkFlag 設定を「1」に変更し、上書き保存してください。

ただし、上記設定変更を行うと、検査対象内にフォルダーのシンボリックリンクが存在する環境では、そのシンボリックリンクの先をたどるようになるため、NIAS がファイルを二重カウントし、判断を誤る可能性があります。

1.3 諸元

NIAS 運用に伴う諸元を以下に記載します。

1.3.1 ディスク使用量

NIAS (機能制限ライセンス) では、以下のとおり C ドライブの容量を使用します。

	インストールのみ	運用時
プログラム	約 2.1 GB	約 2.1 GB
グループ管理のログ	0 MB	最大約 200MB/グループ
検査対象管理データ	0 GB	約 7.5GB/100 万ファイル

【注意】

C ドライブの空き容量が 0 にならないようご注意ください。なお、OS 動作のため必要となる C ドライブのディスク容量は、搭載メモリ量によって異なります。これは、既定で C ドライブに格納されるページファイル、および、メモリダンプファイルのサイズが、搭載メモリ量の影響を受けるためです。

1.3.2 必要なメモリ量

NIAS (機能制限ライセンス)では、以下の目安のメモリを必要とします。

このとき、パス長を平均 100 文字程度として計算しています。

必要メモリ量 (目安)	管理対象ファイル数
4GB	～ 200 万ファイル
8GB	200 万ファイル ～ 1000 万ファイル
12GB	1000 万ファイル ～ 2000 万ファイル
16GB	2000 万ファイル ～ 4000 万ファイル
24GB	4000 万ファイル ～ 6000 万ファイル

1.3.3 NIAS の検査時間

標準的な NIAS の検査 (ファイルスキャン) 時間の目安は、フルスキャン実行時、100 万ファイルに対して 1 時間です。クイックスキャン実行時は、フルスキャンの 6 割程度の時間で終了します。

1.3.4 NIAS 使用ポート

NIAS では Web ブラウザによる管理画面表示を実装しているため、TCP ポート 8080 を使用しています。なお、リモート PC からの接続は Windows ファイアウォールにより制限しています。

2. NIAS を導入する

2.1 NIAS の導入を検討する

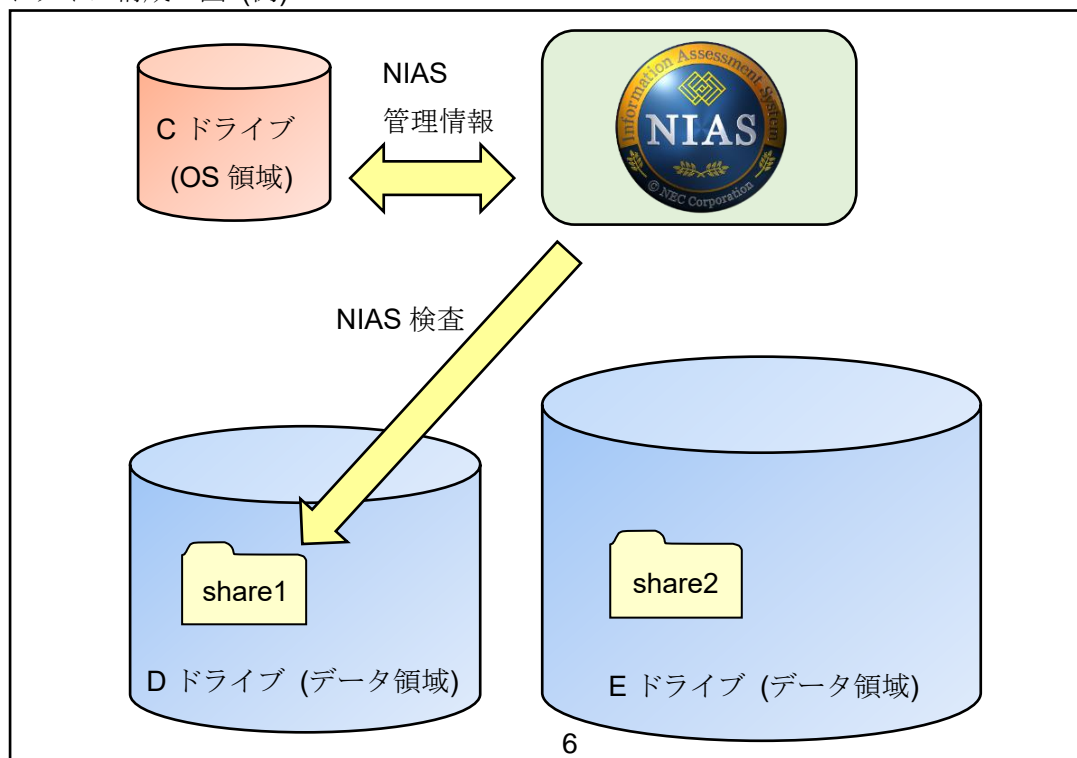
お客様のサーバー運用環境に応じて、NIAS の導入を検討してください。NIAS を使用する
場合、本項以下の各項に従い、設定を行ってください。NIAS を使用しない場合は、NIAS の
サービスの無効化、または NIAS をアンインストールしてください。NIAS のサービスの無
効化を行った場合、CPU やメモリ消費、ディスク負荷には影響は与えませんが、プログラ
ム格納のためのディスク容量消費とサードパーティー製ソフトとの共存に影響があります。
この影響を回避する場合は、NIAS をアンインストールしてください。詳細手順は、本書の
[【3.7 NIAS のサービスを無効化するには】](#)または[【3.9 NIAS をアンインストールするには】](#)
をご覧ください。

2.2 NIAS を設定する

[動作環境]

D ドライブ上に作成している共有 share1 を NIAS の検査対象として出荷時設定しています。

ドライブ構成の図 (例)



[初期設定情報]

iStorage NS シリーズの出荷時における、NIAS 関連の基本設定は、下記のとおりです。

設定項目	設定
NIAS のインストール先フォルダー	C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS
NIAS のデータ格納先フォルダー	C:\NEC\NIAS_DB
登録している NIAS のライセンス	機能制限ライセンス
容量制限	1 TB
NIAS 管理者ユーザー	niasadmin (パスワード : admin)
NIAS のサービス実行ユーザー	OS のビルトイン administrator (パスワード : スタートアップガイド記載のパスワード)
NIAS が保持している自サーバーのホスト名	各 iStorage NS シリーズのモデル名 または、"iStorageNS"

NIAS の検査スケジュールの初期設定は、下記のとおりです。

設定項目	設定
検査スケジュール	毎週 土曜日 0 時 0 分
検査の種別	フルスキャン
対象のグループ	全グループ

NIAS のグループ毎の初期設定は、下記のとおりです。

設定項目	設定
グループ名	D グループ
検査パス	\\localhost\share1\
設定済みアカウント	administrator (パスワード: スタートアップガイド記載のパスワード)
グループ最大容量	1024GB

NIAS の実行可能時間帯の初期設定は、下記のとおりです。

設定項目	設定内容
実行日	すべての曜日
実行時間帯	終日
検査速度	高

上記設定について、見直しが必要な項目の変更手順を次項に記載します。

2.2.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する

以下の手順に従い、iStorage NS の初期設定にて変更した、ビルトイン Administrator のパスワードとコンピューター名を NIAS の設定にも反映してください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、C:¥Program Files (x86)¥NEC¥NIAS¥Tools 配下の NIASNetCfg.exe をダブルクリックします。
2. 起動された下記の画面で、変更後の Administrator のパスワード、および新コンピューター名を入力し、[OK] をクリックします。

NIAS初期設定ツール

※ネットワークのIPアドレスやホスト名、administratorユーザのパスワードの設定、Active Directoryへの参加等が完了した後、本設定を行なってください。

管理者ユーザー情報を入力してください。

ユーザ名: .¥administrator

パスワード: *****

☐ パスワードを表示する

NIASサーバ(本サーバ)にアクセスする際のホスト名を入力してください。

FILESV1

NIASサーバには「http://<ホスト名>:8080/ias-manager/」でアクセスできます。
ホスト名を入力して「テスト」ボタンを押すと、ブラウザを起動して確認できます。

テスト OK キャンセル

3. “NIAS の設定を入力した内容で更新します” の画面で、[OK] をクリックします。
4. 設定の完了後、“設定が完了しました” の画面が表示されるので、[OK] をクリックします。

続けて、出荷時に設定済みの NIAS のグループに設定している、検査先の自サーバーの共有フォルダー接続時の資格情報（ユーザー名/パスワード）に、新しいパスワードを反映するため、下記の手順を実施します。

5. iStorage NS のデスクトップ上にある、[NIAS 管理画面] のアイコンをダブルクリックして NIAS 管理画面を起動します。
6. NIAS 管理画面のログイン画面が表示されるので、下記を入力し、[ログイン] をクリックします。
 ログイン ID : niasadmin
 パスワード : admin
7. [設定] のタブをクリックし、設定を変更するグループの [編集] をクリックします。



8. [アカウント情報] のタブをクリックし、[設定済みアカウント一覧] の "administrator" の [編集/削除] を選択します。該当するアカウント名が表示されますので、[パスワードを編集する] をチェックし、変更後の Administrator のパスワードを入力して、[更新] をクリックします。

management System

グループ編集

基本情報 **アカウント情報** 詳細情報 実行可能時間帯情報

アカウント情報

接続対象パス * 例: ¥¥fileserver¥share¥
<デフォルトアカウント>

アカウント名 * 例: administrator
administrator

パスワード ☒ パスワードを編集する
例: @dMin1!
●●●●●●●●

ドメイン名 例: domain.local、または、DOMAIN

追加
更新
削除
リセット

設定済みアカウント一覧 接続確認

編集/削除	接続対象パス	アカウント名	ドメイン名
<input checked="" type="radio"/>	<デフォルトアカウント>	administrator	

戻る

9. “アカウント情報を編集します。よろしいですか？”の画面で [OK] をクリックします。
10. [接続確認] をクリックし、編集したアカウント情報で接続に成功すると“全検査パスの接続確認に成功しました。”の画面が表示されますので、[閉じる] をクリックします。接続に失敗した場合は、アカウント情報を再度更新してください。

2.2.2 実行可能時間帯を変更する

NIAS の検査を実行できる時間帯として、検査曜日や検査時間帯、検査速度を設定できます。出荷状態では、すべての曜日の終日、検索速度が「高」で実行可能に設定しています。ファイルサーバーの運用状況に応じて、実行可能時間帯を変更してください。なお、ファイルサーバーを 24 時間運用しているなど、NIAS 検査に高負荷をかけて良い時間帯がなく、業務時間中に検査を実行する場合は、検査速度を「低」に設定することで、ファイルサーバーへの負荷を減らすことができます。

以下に、実行可能時間帯を変更する手順を説明します。

1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックします。
2. 設定を変更したいグループの [編集] をクリックします。

整理依頼 自動整理 アクセス権 ログ 設定 ログアウト

Assessment System 自動更新 ?

グループ一覧

統計検査状況

システム状態: スタンバイ
次回検査日時: 2019/09/21 00:00
統計検査実行

個別状況

一括切替	[1]	1件中 1-1 件表示	並び順変更			
検査対象	ID	グループ名	検査パス	検査状態	最終更新日時	操作
<input checked="" type="checkbox"/>	1	Dグループ	¥¥localhost¥share1¥	未実行		<div>編集</div> <div>削除</div>

一括切替 [1] 1件中 1-1 件表示 並び順変更

グループ登録 コピーしてグループ登録

3. 【実行可能時間帯情報】のタブを選択します。下記表を参照し、実行日、実行時間帯、および検査速度の設定を行います。

設定項目	設定内容
実行日	検査を実行可能な曜日を設定
実行時間帯	終日、または〇時〇分～〇時〇分を選択 (5分単位)
検査速度	「高」または「低」を選択

グループ編集

基本情報

アカウント情報

詳細情報

実行可能時間帯情報

実行可能時間帯設定

実行日 *

☐月曜日
☐火曜日
☐水曜日
☐木曜日
☐金曜日
☐土曜日
☐日曜日

実行時間帯 *

☒終日
☐〇時 〇分 ~ 〇時 〇分

検査速度 *

高

設定済み実行可能時間帯一覧

編集/削除	実行日	
<input type="radio"/>	月・火・水・木・金・土・日曜日	終日

戻る

2.2.3 検査スケジュールを変更する

NIAS 管理画面で参照できる見える化データは、この検査スケジュールの実行結果です。お客様の要求レベルに応じて、検査の頻度を決定してください。なお、出荷状態では、全グループに対して、毎週土曜日の 0 時 0 分にフルスキャンを実行するように、NIAS の検査スケジュールを設定しています。

【注意】

- 検査中は、CPU 負荷が 20～30%程度上がり、検査対象のディスクに負荷がかかります。
- 検査スケジュールの開始時刻に OS が起動していない場合、その検査はスキップされます。
- 検査結果はデフォルトで 36 回分が保存され、それ以前の検査結果は削除されます。

1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックします。
2. 左画面の [スケジュール] をクリックして、設定を変更したいグループの [編集] をクリックします。
3. フルスキャンの開始日時を変更する場合は、下記表を参照し、[検査スケジュール(全グループ)設定] にて開始日時を変更します。クイックスキャンを使用する場合は、[設定済み検査スケジュール(全グループ)] にて、“クイックスキャン” を選択し、同様に開始日時を設定します。

設定項目	設定内容
開始日時	<p>以下の 5 パターンから選択し、開始日時を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年単位 (毎年) ・ 月単位 (1 ヲ月毎～12 ヲ月毎) ・ 週単位 (1 週間毎～4 週間毎の○曜日) ・ 日単位 (毎日～31 日毎) ・ 一回のみ

整理依頼
自動整理
アクセス権
ログ
設定
ログアウト

Management System

検査スケジュール(全グループ)設定

開始日時

☐ 年
☐ 月
☒ 週
☐ 日
☐ 一回のみ

☐ 月曜日
☐ 火曜日
☐ 水曜日
☐ 木曜日
☐ 金曜日
☒ 土曜日
☐ 日曜日

更新

削除

更新種別

☒ フルスキャン
☐ クイックスキャン

設定済み検査スケジュール(全グループ)

編集／削除	開始日時	次回実行日時
<input checked="" type="radio"/>	毎週 土曜日 0時0分（フルスキャン）	2019年9月21日 0時0分
<input type="radio"/>	未設定（クイックスキャン）	

戻る

【補足】

フルスキャン と クイックスキャン の違いは、以下の通りです。

- フルスキャン

NIAS に必要な全ての情報を取得します。

- クイックスキャン

フルスキャンのうち、以下の情報取得を省略します。そのためフルスキャンに比べて検査時間の短縮 (約 40%) が期待できます。ただし、初回検査の場合は、必ずフルスキャンで実行されます。

- ファイル・フォルダーのアクセス権情報
- ファイル・フォルダーの所有者情報
- ファイルのファイル種別情報

2.3 ウイルス対策ソフトの除外設定を行う

iStorage NS 上にて、ウイルス対策ソフト (OS 付属の Windows Defender、もしくは、他社のウイルス対策ソフトウェア製品) を使用する場合、ご利用のウイルス対策ソフトの除外フォルダーとして、下記 2 つのフォルダーを設定してください。

- NIAS のインストール先フォルダー : C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS
- NIAS のデータ格納先フォルダー : C:\NEC\NIAS_DB

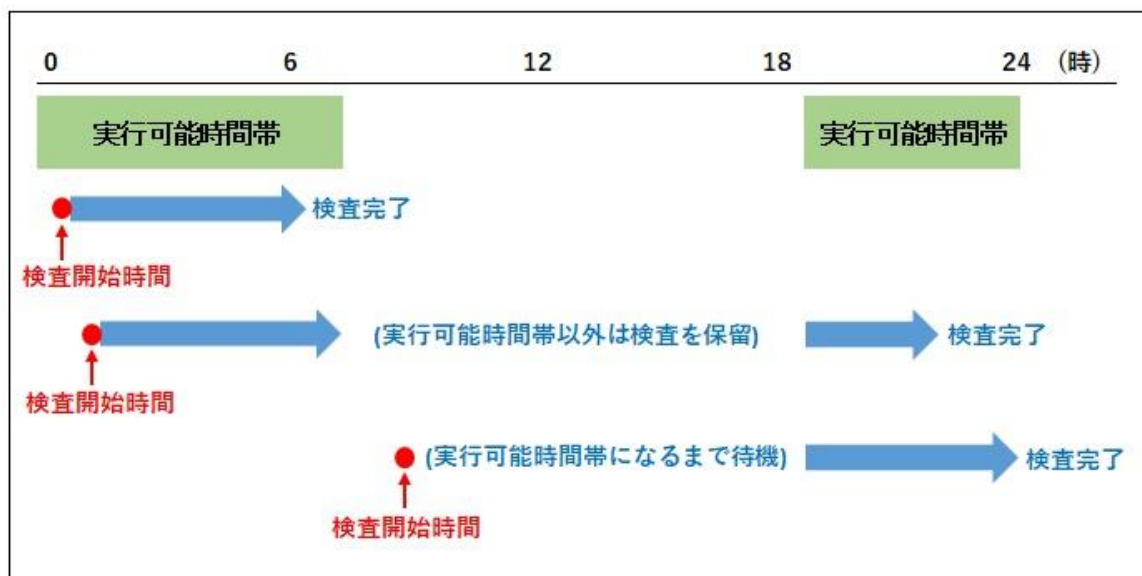
除外設定を実施していない場合、NIAS の検査が正常に動作しない可能性、および、正常に動作する場合でも所要時間が長くなる可能性があります。

3. NIAS を運用する

3.1 検査を実行するには

NIAS の検査を実行するにあたり、グループ毎に検査の実行が可能な時間帯（実行可能時間帯）と検査スケジュールを設定します。検査は、実行可能時間帯でのみ実行されますので、お客様の基本的な運用スケジュールに合わせて実行可能時間帯を設定してください。開始した検査が実行可能時間帯内に完了しなかった場合は、検査が保留され、次の実行可能時間帯に再開されます。また、設定した実行可能時間帯外に検査スケジュールを設定した場合、実行可能時間帯になるまで検査は待機されます。

検査実行のイメージ (例)



3.1.1 実行可能時間帯を設定する

以下に、実行可能時間帯を変更する手順を説明します。

1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックします。
2. 設定を変更したいグループの [編集] をクリックします。

The screenshot shows the NIAS management interface. At the top, there are tabs for '整理依頼', '自動整理', 'アクセス権', 'ログ', and '設定' (selected). A 'ログアウト' button is in the top right. Below the tabs, there's a 'Assessment System' header with an '自動更新' button. The main content area is titled 'グループ一覧' (Group List). It includes a '統計検査状況' (Statistical Inspection Status) section with 'システム状態' (System Status) as 'スタンバイ' (Standby) and '次回検査日時' (Next Inspection Date/Time) as '2019/09/21 00:00'. A '統計検査実行' (Statistical Inspection Execution) button is below this. The '個別状況' (Individual Status) section shows a table with one group, 'Dグループ'. The table has columns for '検査対象' (Inspection Target), 'ID', 'グループ名' (Group Name), '検査パス' (Inspection Path), '検査状態' (Inspection Status), '最終更新日時' (Last Update Date/Time), and '操作' (Action). The '操作' column for 'Dグループ' has a red box around the '編集' (Edit) button. Below the table, there are buttons for 'グループ登録' (Group Registration) and 'コピーしてグループ登録' (Copy and Register Group).

検査対象	ID	グループ名	検査パス	検査状態	最終更新日時	操作
<input checked="" type="checkbox"/>	1	Dグループ	¥¥localhost¥share1¥	未実行		編集 削除

3. [実行可能時間帯情報] のタブを選択します。下記表を参照し、実行日、実行時間帯、および検査速度の設定を行います。

設定項目	設定内容
実行日	検査を実行可能な曜日を設定
実行時間帯	終日、または〇時〇分～〇時〇分を選択 (5分単位)
検査速度	「高」または「低」を選択

グループ編集

基本情報

アカウント情報

詳細情報

実行可能時間帯情報

実行可能時間帯設定

実行日

*

☐月曜日
☐火曜日
☐水曜日
☐木曜日
☐金曜日
☐土曜日
☐日曜日

実行時間帯

*

☒終日
☐

0時

0分

~

0時

0分

検査速度

*

高

▼

設定済み実行可能時間帯一覧

編集／削除	実行日	
<input type="radio"/>	月・火・水・木・金・土・日曜日	終日

戻る

3.1.2 検査スケジュールを設定する

検査スケジュールを設定する手順を説明します。

1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックして、左画面の [スケジュール] をクリックします。
2. 以下の画面で、検査スケジュールの範囲を選択します。複数のグループが存在する場合、[検査スケジュール (全グループ)] を選択すると、全てのグループに対して同じスケジュールを設定できます。[検査スケジュール (グループ単位)] を選択するとグループ単位でスケジュールを設定できます。

グループ名	開始日時	次回実行日時	操作
全グループ	毎週 土曜日 0時0分 (フルスキャン)	2019年9月21日 0時0分	編集

3. 設定を変更したいグループの [編集] をクリックします。

4. 下記表を参照し、開始日時と更新種別を設定して、[更新] を押下します。なお、全グループに対する検査スケジュールを設定する場合、[設定済み検査スケジュール(全グループ)] 配下で、“フルスキャン” または “クイックスキャン” を選択します。

設定項目	設定内容
開始日時	以下の 5 パターンから選択し、開始日時を設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年単位 (毎年) ・ 月単位 (1 ヶ月毎～12 ヶ月毎) ・ 週単位 (1 週間毎～4 週間毎の○曜日) ・ 日単位 (毎日～31 日毎) ・ 一回のみ
更新種別	フルスキャン、またはクイックスキャンを選択

整理依頼
自動整理
アクセス権
ログ
設定
ログアウト

ment System

検査スケジュール(全グループ)設定

○年 毎年
○月 毎月
●週 毎週
○日 毎日
○一回のみ

☐月曜日
☐火曜日
☐水曜日
☐木曜日
☐金曜日
☒土曜日
☐日曜日

2019年
1月
1日
0時
0分

更新
削除

更新種別

●フルスキャン
○クイックスキャン

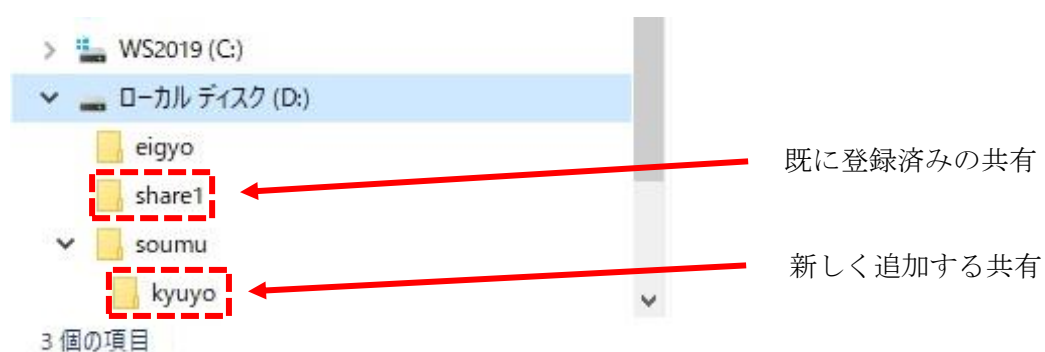
設定済み検査スケジュール(全グループ)

編集／削除	開始日時	次回実行日時
●	毎週 土曜日 0時0分 (フルスキャン)	2019年9月21日 0時0分
○	未設定 (クイックスキャン)	

戻る

3.2 既存のグループに共有を追加するには

Dドライブに存在する共有を既存のグループに追加する手順を説明します。例として、下記では既存の D グループに新しい共有 (kyuyo) を追加する手順を説明します。なお、グループに登録済みの配下に位置する共有を登録すると、NIAS で算出する容量の整合性が保てませんので注意が必要です。



1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックします。
2. 設定を変更したいグループの [編集] をクリックします。

3. [検査パス] の入力フィールドに追加したい共有を UNC パスで入力し、[更新] をクリックします。

Assessment System

整理依頼 自動整理 アクセス権 ログ 設定 ログアウト

グループ編集

基本情報 アカウント情報 詳細情報 実行可能時間帯情報

グループ情報

グループ名 * Dグループ

ログインID ☐ Active Directoryユーザ/グループIDでログインする

ログインパスワード ☐ パスワードを編集する

検査対象設定

検査パス *

例：¥¥fileserver¥share¥
¥¥localhost¥share1¥
¥¥localhost¥kyuyo¥

戻る 更新

4. グループ情報の編集を確認するメッセージが表示されるので、[OK] をクリックします。

3.3 新しいグループを作成し共有を追加登録するには

新しいグループを作成し、共有を登録する手順については【**NIAS (機能制限ライセンス) 利用ガイド 2. 初期設定 : NIAS の管理対象 (グループ) を設定する**】をご覧ください。

3.4 Administrator のパスワード変更またはコンピューター名の変更を NIAS に反映するには

iStorage NS の OS のビルトイン Administrator のパスワードを変更した場合、またはコンピューター名を変更した場合は、NIAS の設定を変更してください。詳細な手順については、本書の【[2.2.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】をご覧ください。

3.5 ビルトイン Administrator のユーザー名を変更、またはアカウントの無効化を実施した際の対処

iStorage NS の出荷時設定では、NIAS のサービスを起動するユーザー名として、ビルトイン Administrator のユーザー名を設定しています。このため、Administrator のユーザー名を別の名前に変更、または、Administrator アカウントの無効化を実施すると、NIAS サービスの起動ユーザーとして設定していたユーザー名が存在しなくなるため、下記の 4 つのサービスの起動が失敗するようになります。

サービス名	表示名
Information Assessment System Agent Service	IAS_AGENT
Information Assessment System Booster Service	BST_WINSVC
Information Assessment System Scheduler Service	IASSCHEDULER
Apache Tomcat 9.0 Tomcat9	Tomcat9

サービス起動の失敗を回避するため、上記 4 つのサービスを起動するユーザー名を変更してください。以下に、名前を変更した **Administrator** ユーザーにて **NIAS** を実行する方法と、新規ユーザーにて **NIAS** を実行する方法について説明します。ビルトイン **Administrator** ユーザーの名前を変更した際は、どちらの方法も実施可能です。ビルトイン **Administrator** を無効化した際は、後者の方法を実施してください。

3.5.1 名前を変更した **Administrator** ユーザーにて **NIAS** サービスを実行する方法

ビルトイン **Administrator** のユーザー名を変更した場合に、変更後の **Administrator** ユーザーの権限にて **NIAS** サービスを実行する場合は、下記手順 1 と手順 2 を実施し、**NIAS** サービスの実行ユーザー名として、変更後のユーザー名を指定してください。

□手順 1： 各サービスのアカウント/パスワード変更

1. **iStorage NS** のデスクトップ上のアイコンから [管理者メニュー] を起動し、一覧から [サービス] ツールを起動します。
2. サービスの一覧より、"**Apache Tomcat 9.0 Tomcat9**" をダブルクリックします。
3. サービスのプロパティが表示されたら、[ログオン] タブをクリックします。
4. "アカウント" 欄の [参照] ボタンをクリックします。
5. 起動した [ユーザーの選択] 画面で、[場所の指定] に自コンピューターの名前が表示されていることを確認します。(ドメイン環境の場合、本欄にドメイン名が表示されていたら、[場所] ボタンをクリックし、自コンピューターを選択してください)
6. [選択するオブジェクト名を記入してください] 欄に、ビルトイン **Administrator** アカウントのリネーム後の名前を記入し、[名前の確認] ボタンをクリックします。
7. [選択するオブジェクト名を記入してください] 欄に記入した名前が、
＜自コンピューター名＞¥＜記入した名前＞
となり、アンダーバーが表示されていたら、名前が確認済みとなりますので、[OK] をクリックします。
8. サービスのプロパティの [アカウント] 欄が、「.¥＜記入した名前＞」となっていることを確認します。
9. [パスワード] 欄と、[パスワードの確認入力] 欄に、指定したユーザーのパスワードを入力します。
10. [OK] をクリックします。
11. 上記 2.～10.と同様の手順を、下記 3 つのサービスに対しても実施してください。

Information Assessment System Agent Service
Information Assessment System Booster Service
Information Assessment System Scheduler Service

以上で、サービスのアカウント名とパスワード変更は完了です。

※サービスの開始は、ここでは実施しません。手順 2 で実施します。

□手順 2： 各サービスの開始

[サービス] ツールにて、下記の①～④の順番で、サービス名を右クリックし、[開始] をクリックしてください。サービス開始が成功すると、各サービスの [状態] 欄に「実行中」と表示されます。

- ① Information Assessment System Agent Service
- ② Information Assessment System Booster Service
- ③ Information Assessment System Scheduler Service
- ④ Apache Tomcat 9.0 Tomcat9

なお、サービス開始に失敗し、「エラー1069:ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした」というエラーメッセージが表示される場合は、該当サービスのパスワードの再入力 (前述の手順 1 の 9.) を実施し、再度サービス開始を実施してください。

また、出荷時に NIAS 上に作成済みとなっているグループの設定にて、検査先となる自サーバー上の共有フォルダーへ接続する際の資格情報 (ユーザー名/パスワード) として、ビルトイン Administrator のユーザー名と初期パスワードがあらかじめ設定済みとなっています。このため、Administrator のユーザー名を変更した場合は、グループ設定に記憶している資格情報についても更新する必要があります。【[2.2.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】の手順のうち、NIASNetCfg.exe ツールを使った設定をスキップし、"NIAS 管理画面を起動"以降の手順を参考にして、共有フォルダーへ接続する際の資格情報 (ユーザー名/パスワード) を変更してください。

以上で対処完了です。

なお、今後の運用において、名前を変更した Administrator ユーザーのパスワードを変更した際には、本書【[2.2.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】の手順にて NIAS サービスにパスワード変更を反映してください。

3.5.2 新規ユーザーにて NIAS を実行する方法

NIAS サービスの実行用として、新規のユーザーを作成する場合は、ローカル **Administrators** グループに属する新しいユーザーアカウントを作成し、パスワードの設定を行ってください。アカウントの【パスワードを無期限にする】の設定は、お客様のセキュリティポリシーに応じて有効化を検討してください。新アカウント名とパスワードを使用して、前項の手順 1 と手順 2 と同様の手順にて、NIAS の 4 つのサービスの実行ユーザーとして、新しく作成したユーザーアカウント名とパスワードを設定してください。

新規作成したアカウントは、管理者権限を持つアカウントとなりますので、お客様のセキュリティポリシーに沿ったパスワード管理を行ってください。なお、【パスワードを無期限にする】を有効にしていない場合にパスワードが期限切れになると、本章冒頭に記載した 4 つのサービスの起動が失敗します。

また、今後の運用において、NIAS サービス実行用ユーザーアカウントのパスワードを変更した際には、本書【[2.2.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】の手順にて NIAS サービスにパスワード変更を反映してください。

3.6 検査対象を増やすには

iStorage NS シリーズの出荷状態では、検査対象のファイル数を約 200 万ファイルと想定しています。検査対象を増やす場合は、以下について確認し、必要に応じて対応してください。

- 搭載メモリ量
検査対象のファイル数に応じて、使用メモリ量も増加します。考慮すべき必要メモリ量については、本書の【[1.3.2 必要なメモリ量](#)】をご覧ください。
- C ドライブのディスク使用容量
検査対象のファイル数に応じて、C ドライブの使用ディスク容量も増加します。考慮すべきディスク容量については、本書の【[1.3.1 ディスク使用量](#)】「検査対象管理データ」をご覧ください。
- 検査スケジュール/実行可能時間帯
検査対象のファイル数に応じて、検査の所要時間が長くなります。検査の所要時間は、フルスキャン実行時、100 万ファイルに対して 1 時間を目安に調整してください。変更手順については、本書の【[3.1 検査を実行するには](#)】をご覧ください。

3.7 NIAS のサービスを無効化するには

以下に、NIAS のサービスを無効化する手順を説明します。

1. 管理者権限のコマンドプロンプトを起動します。

2. 以下のコマンドを実行します。

C:\NEC\iStorageNS\nias\NIAS 無効化.bat

3. 処理が完了したことを示すメッセージを確認し、コマンドプロンプト画面を閉じます。

また、必要に応じて、デスクトップ上の **NIAS** のショートカットアイコン (**NIAS** 管理画面、ライセンスツール) を手動で削除してください。なお、これらのショートカットアイコンを削除すると、サービスを有効化しても作成されませんのでご注意ください。

3.8 NIAS のサービスを有効化するには

以下に、NIAS のサービスを有効化する手順を説明します。

1. 管理者権限のコマンドプロンプトを起動します。

2. 以下のコマンドを実行します。

C:\NEC\iStorageNS\nias\NIAS 有効化.bat

3. 処理が完了したことを示すメッセージを確認し、コマンドプロンプト画面を閉じます。

なお、NIAS のサービスを有効化すると、OS のサインイン時に **NIAS** 管理画面を自動起動するショートカットが出荷時状態で作成されます。**NIAS** 管理画面のログイン ID (**NIAS** ローカル ID) または、パスワードを出荷時状態から変更していた場合、自動起動した **NIAS** 管理画面がログイン失敗となります。そのため、【**NIAS (機能制限ライセンス)利用ガイド** 付録 D. **NIAS** のスタートアップ起動】を参照して変更していたログイン ID/パスワードを自動起動するショートカットに設定してください。

3.9 NIAS をアンインストールするには

NIAS と関連モジュールのアンインストール、および OS 設定の変更手順を説明します。

【注意】

一度 NIAS をアンインストールすると、バックアップ DVD から OS を再インストールする以外に、NIAS を再インストールする方法はありません。

なお、NIAS サービスが有効である場合は、以下の手順で NIAS サービスを無効化後、アンインストールしてください。

3.9.1 NIAS サービスの無効化

以下の手順で、NIAS サービスを無効化します。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、管理者権限のコマンドプロンプトを起動します。
2. 以下のコマンドを実行します。
`C:¥NEC¥iStorageNS¥nias¥NIAS 無効化.bat`
3. 処理が完了したことを示すメッセージを確認し、コマンドプロンプト画面を閉じます。

3.9.2 NIAS のアンインストール

以下の手順に従い、NIAS をアンインストールしてください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、管理者メニューの [プログラムと機能] をクリックします。
2. 表示されたプログラムの中から、"NEC Information Assessment System <バージョン番号>" を右クリックし [アンインストール] を選択します。
3. 画面に従ってアンインストールします。インストーラーが開始してしばらく待つと、PostgreSQL サーバーのアンインストール確認のポップアップが表示されますので、

[はい] をクリックします。

4. アンインストールが完了したら、[閉じる] をクリックします。

【補足】

NIAS のアンインストールに伴い、Oracle JDK 17 も同時にアンインストールされます。

【注意】

[プログラムと機能]の一覧から PostgreSQL が削除されるまでに、数分程度の時間を要することがあります。

3.9.3 Apache Tomcat のアンインストール

以下の手順に従い、Apache Tomcat をアンインストールしてください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインして、管理者メニューの [プログラムと機能] をクリックし、表示されたプログラムの中から [Apache Tomcat 9.0 Tomcat9 (remove only)] を右クリックして [アンインストールと変更] を選択します。
2. Apache Tomcat の画面に従い、アンインストールを実行します。
3. アンインストールが完了したら、[Close] をクリックします。

3.9.4 NIAS シャットダウンスクリプトの削除

以下の手順に従い、NIAS シャットダウンスクリプトを削除してください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、スタートアップメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、"gpedit.msc"を入力して [Enter] キーを押下します。
2. [ローカル コンピューター ポリシー] – [コンピューターの構成] – [Windows の設定] – [スクリプト (スタートアップ/シャットダウン)] を選択し、右画面の [シャットダウン] をダブルクリックします。

3. [シャットダウンのプロパティ] のファイル一覧から “pgshutdown.cmd” を選択し、[削除] をクリックします。選択されたファイルが一覧から削除されたことを確認して、[OK] をクリックします。

3.9.5 シャットダウンのタイムアウト時間を OS の既定値に変更

シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間と、OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間の値を OS の既定値に戻してください。手順は、下記のとおりです。

1. シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間を変更します。iStorage NS に管理者権限でサインインし、スタートアップメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、“gpedit.msc” を入力して [Enter] キーを押下します。
2. [コンピューターの構成] - [管理用テンプレート] - [システム] - [スクリプト] にある [グループポリシースクリプトの最大待機時間を指定する] をダブルクリックします。
3. 選択されている項目を [有効] から [未構成] に変更し、[適用] をクリックして [OK] をクリックします。これにより、OS の既定値(600 秒)に戻ります。
4. 次に、OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間を変更します。スタートアップメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、“regedit”を入力して [Enter] キーを押下します。
5. レジストリエディターが起動したら、以下にアクセスします。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥gpsvc
6. 右画面の [PreshutdownTimeout] をダブルクリックします。
7. 編集ダイアログが開いたら、値の表記を 10 進数に変更します。
その後、本欄にミリ秒単位で 900000 と入力し、[OK] をクリックします。
これより、OS の既定値 (15 分) に戻ります。
8. 変更を反映するため、OS を再起動します。

4. 困ったときは

4.1 FAQ

以下によくある問い合わせを記載します。弊社 PP・サポートサービス（有償）のサポートポータルホームページでも、[サポート FAQ] にて随時公開していますので、こちらをご覧ください。

質問	iStorage NS にログオン時に、NIAS の管理画面が自動起動するのをやめたい
回答	<p>iStorage NS に管理者権限でログオンし、下記の手順を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. エクスプローラーを起動し、アドレスバー（パスを入力する欄）に、下記のパスを入力します。 C:¥ProgramData¥Microsoft¥Windows¥Start Menu¥Programs¥StartUp ※注：エクスプローラー上で "C:¥" を表示しても、配下の "ProgramData" フォルダは隠しフォルダのため表示されません。2. 上記 1. のパス配下に存在する "NIAS 管理画面.url" という名前のインターネットショートカットを削除、または、別のフォルダに移動すると、次回ログオン時から NIAS 管理画面が自動起動しなくなります。 ※注：削除すると、後で元に戻す方法がありませんので、元に戻す可能性がある場合は他の任意のフォルダに移動し、移動先フォルダ名を忘れないようにしてください。

質問	OS のサービスの一覧に「Information Assessment System Migration Scheduler Service」という名前のサービスがありますが、[スタートアップの種類] が "無効" になっています。これは、正常でしょうか？
回答	NIAS のライセンスが "機能制限ライセンス" の場合、該当サービスを使用しません。このため、出荷時点からサービスは無効になっており、正常です。

4.2 トラブルシューティング

事象	<p>以下の4つのサービスが起動しない。</p> <ul style="list-style-type: none">• Information Assessment System Agent Service• Information Assessment System Booster Service• Information Assessment System Scheduler Service• Apache Tomcat 9.0 Tomcat9
対処	<p>iStorage NS の出荷時に、上記4つのサービス開始時の資格情報（ユーザー名とパスワード）として、ビルトイン Administrator のユーザー名、および、出荷時の初期パスワードを設定済みとしています。このため、下記①から③の場合に、サービスの起動が失敗するようになります。</p> <ol style="list-style-type: none">① Administrator ユーザーのパスワードを変更した② Administrator ユーザーのユーザー名を変更した③ Administrator ユーザーのアカウントを無効化した <p>対処は下記のとおりです。</p> <p>上記①の場合、【3.4 Administrator のパスワード変更またはコンピューター名の変更を NIAS に反映するには】を参照してください。</p> <p>上記②③の場合、【3.5 ビルトイン Administrator のユーザー名を変更、またはアカウントの無効化を実施した際の対処】を参照してください。</p>